

第66回 埼玉県美術展覧会審査評

【第5部 書】

審査主任 よしざわ すいてい 吉澤 翠亭

第66回展の総出品数は537点で、前回展との比較では10点の減少でした。審査に当たっては、制作者の心を汲んで厳正に作品本位で279点の入選作を決定しました。出品作品は書体・書風・作品様式等、多岐多彩に亘り、過去には見られなかったユニークな発想による作品がありました。

審査は賞の決定まで公正・公平に六次に亘り実施し、特に入賞候補作品については釈文票をもとに誤字・脱字の有無を確認しました。その結果、12点の特選を決定しました。受賞作品からは確かな基礎を積み重ねた練度の高さを感じさせてくれました。誤字のある作品もありましたので、制作に当たっては草稿を練る段階で、自分ではわかっているつもりでも字典で確認することをお薦めします。

・埼玉県知事賞

おういし 「王維詩」 ひらおか れいこう 平岡 玲篁

日頃の古典への取り組みが堅実であることを窺^{うかが}わせる出来栄えです。急がず落ち着いた雰囲気^{とかく}を醸し出しています。多字数になりますと兎角どこかでリズムが乱れるものですが、字間の余白も程良く、うまく流れを作っています。練達度の高い作品です。

・埼玉県議会議長賞

「くれなゐの」 あらい ぶんこう 新井 文香

和歌と俳句のコラボレーション。初めの二行に躍動感のある和歌を配し、結びに俳句^{かっぴつ}を渴筆で締めくくった作品です。二行目を右下に流して緊張感を解いている感があります。構想をしっかりと整えての制作であったかと思

われます。一方、^{りょうし}料紙との相乗効果も見逃せない作品です。

・埼玉県教育委員会教育長賞

「^{とうし}唐詩」^{すずき}鈴木^{こうえん}光苑

重厚感のある作です。これだけの多字数にも拘わらず、点画の構成をおろそかにせず、横広の構成を限界まで攻め込んだ意気込みにはただ感嘆するのみです。集中力の^{みなぎ}漲った出来栄えともいえるでしょう。兔角落款は行書でおさめがちですが、本文と同じ表現にしたこともよかったと受け止めました。

・埼玉県美術家協会賞

「^{はくがをはくす}博白鵝」^{あらい}新井^{あきえ}昭江

^{ほうすん}方寸に^{はくぶん}白文で^{かんたいし}韓退之の「^{ふち}石鼓歌」の三字を布置しています。魅力的な空間処理を施して、朱白のコントラストが美しい作品となっています。刀の切れ味鋭く、力強い鮮やかさが際立ち堂々たる風格を感じさせます。側款も堅実で群を抜く出来栄えで、作者の豊富な経験と力量の高さが溢れています。

・埼玉県美術家協会賞

「^{ばしんし}馬臻詩」^{さがわ}佐川^{かけい}花蹊

七言絶句を^{たんぼく}淡墨で表現した^{さんぎょうしよ}三行書。一貫して^{みなぎ}気迫が漲っています。それでいて無理がなく仕上げた快作です。^{せんじょう}線条・^{ぼくりょう}墨量の変化・行間の取り方など制作に欠かせない要点をよく心得ています。^{ぼくりょう}墨量を含んだ線も重くならず^{うんびつ}切れ味よく^{うんびつ}運筆しています。紙との相性が良かったのか墨色が生きています。大小・細太の変化などによる余白の生かし方も見事です。

・埼玉県美術家協会賞

「^{おうちよくし}王直詩」^{やまぎし}山岸^{しゅうか}秋珂

一見^{れいしよ}隷書に見えますが、そのなかに^{かいしよ}楷書風の姿を採り入れたところに妙味を感じます。字間がすっきり構成され、日頃から書に対して真面目に取りこんだ作品です。作品は^{ふでづか}丁寧な筆遣いで安定感があり、^{はいじ}配字よく構成も見事です。

す。

作品全体の感じは、伸びやかな線が爽やかで、筆捌きふでさばがうまく、開閉かいへいも自在です。今後は自分の「型」の形成を確立して下さい。

・さいたま市長賞

「杜審言詩」
としんげんし
みずの ちようこう
水野 澄篁

楷書の風を含んだ隷書で、濃墨のうぼくで切れ味抜群な作品です。字間も整っていて、性格が表れており、骨格がしっかりした用筆ようひつで安定感があります。無駄のない動きで好感がもてます。素直で重厚味のある線が魅力で、全体を引き締めています。真面目な書きぶりで完成度の高い作品に仕上がりました。

・さいたま市議会議長賞

「動」
どう いしい こうすい
石井 孝翠

少字数作品は、戦後手島右卿てしまゆうけいや松井如流まついじょりゅうにより大きく発展した分野です。それまで多字数が主流の伝統書に対して一字から数字という少ない字数で、しかも絵画やグラフィックデザインの要素まで取り入れた新感覚の分野です。ともすれば見せんかなという気持ちが前面に出過ぎ易いのですが、この作は、線にこだわり過ぎず、無理をしないで、至極真っ当に書いています。潤・渴（にじみとかすれ）と余白の対比が観る人の心を捉えて離さないでしょう。

・埼玉新聞社賞

「あしひきの」 すがや菅谷 しすい志水

万葉歌二首を縦書きにした作品です。四行書きですが、すっきりとした余白のとり方、中央部分に墨を集め盛り上げて、潤・渴と文字の大小による流動美により、美しさを引き立たせています。万葉時代のめぐり来る季節の歎び、雄大な自然への畏敬の念を余す所なく表現し、大地から湧き上がるようなエネルギー溢れた心打つ作品となっています。

・時事通信社賞

「于謙詩」 うけんし柳田 やなぎた けいかく桂鶴

最年少の受賞者。北魏の楷書をベースにしたものか、楷書作品の少ない中で、際立った存在です。日頃の練磨が実を結んだものかと受け止めています。筆がよく立っており、線が強く研ぎ澄まされた厳しい筆致ひつちで表現された秀作。字間じかん・行間ぎょうかんをうまく取り、首尾一貫した静かな流れを見せています。よくもここまで集中することができたものかと感心するところです。

・埼玉県美術家協会会長賞

「花すすき」 はな吉田 よしだ あつみ敦美

まずは永年に亘って積み上げてきた練度の高さに感服します。

墨色と料紙の調和が見事です。そして、古筆こひつの匂いを表に出さず、気負わずに表現したところに高い評価を得たものと考えます。作品構成はあたかも一幅の絵を見るような、またクラシック音楽を耳にするようなリズム感を覚えます。静かな滑り出しに始まり、いよいよクライマックスに到達し、やがて終末を迎えるといった具合に。

・高田誠記念賞

おうようしゅうし
「歐陽脩詩」

ままだ じゅせん
眞々田 壽扇

細字ながら気の緩むところがなく、緊張感の高い作品です。温かみのある線が心を和ませてくれるようです。ゆったりとしたリズムで運筆しているのかと窺えます。字間、行間の捉え方がそう見せているのかとも思えます。この姿勢に留まることなく自分の方向性をしっかり見つめて更なる精進を期待するところです。